

# 第○学年 道徳科学習指導案例（細案）

日 時 令和○年○月○日（○）○校時  
対 象 ○年○組○名  
指導者 ○○ ○○

## 1 主題名 「(例) まわりをよく見て考えるきまり」 【内容項目C 規則の尊重】

本時で取り扱う内容項目の中から、どのような道徳的価値をねらいとするのか端的に表したものを記述する。なお、関連する内容項目を併記する。

## 2 ねらいと教材

きまりの意義を理解し、みんなのことやまわりの状況を考えて、きまりを守ろうとする○○を育てる。

「雨のバスでいりゅう所で」(小学道徳 生きる力4 日本文教出版)

道徳科の内容項目を基に、ねらいとする道徳的価値や道徳性の様相（道徳的判断力、心情、実践意欲と態度）を端的に表したものを記述する。また、授業において用いる教科用図書やその他の教材の題名を記述する。なお、その出典等を併記する。

## 3 主題設定の理由

### (1)ねらいとする道徳的価値について

ねらいや内容項目についての教師の捉え方、指導の意図を明確に記述する。

### (2)児童生徒について

本主題に関連する児童生徒の実態やこれまでの学習状況及び教師の願いを記述する。

### (3)教材について

使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法を記述する。

## 4 学習指導過程

教師の指導と児童生徒の学習の手順を示すものである。一般的には、学習指導過程を導入、展開、終末の各段階に区分し、児童生徒の学習活動と主な発問、予想される児童生徒の反応、指導上の留意点、評価の視点などを指導の流れに即して記述する。

学習指導過程は、教師の指導の意図や児童生徒の実態、教材の効果的な活用などに合わせて弾力的に扱うなどの工夫をします。

段階	学習活動と主な発問 (○発問 ◎中心発問)	予想される児童生徒の反応	指導上の留意点 ☆評価の視点
導入 ○分	本時の主題に関わる問題意識をもたせたり、教材の内容に興味や関心をもたせたりするようにする。		

展 開 ○ 分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;">         児童生徒の実態と教材の特質を押さえた発問などをしながら進めていくようにする。       </div>
終 末 ○ 分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;">         学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめたり、学んだことを更に深く心にとどめたり、これからへの思いや課題について考えたりする活動などを取り入れるようにする。       </div>

## 5 学習状況（学びの姿）を見取る視点

児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子について、学習活動に着目した上で、何を、どのように見取るのかを記述する。

- 道徳科の評価は、ねらいを達成できたかどうかを見取るものではないため、「～できたか」という表記はしない。「こんなふう考えていたか」「こんなふう考えようとしたか」のようにするのが適している。
- 1単位時間の授業での学習状況（学びの姿）を蓄積し、大きくくりなまとまりを踏まえた評価や児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価につなげるものとする。

## 6 その他

他の教育活動などとの関連、教材分析、板書計画など、必要な事柄を記述する。

### <参考>「4 学習指導過程」についての取組例

児童生徒が問題意識をもち、主体的に考え、話し合うことができるよう、以下のように指導の工夫をします。

**発問** 教師の指導の意図に基づいたねらいに迫る中心発問と、中心発問を深めていくための問い返しや揺さぶりの発問を工夫する。その際、考える必然性や切実感のある発問、自由な思考を促す発問、多面的・多角的に考えたりする発問などを心掛ける。

※下線は令和6年度の特に力点を置いて取り組んでいただきたい実践事項

**話し合い** 考えを出し合う、まとめる、比較するなどの目的に応じて、効果的に話し合いが行われるよう工夫する。

**書く活動** 必要な時間を確保し、考えを深めたり、整理したりできるようにする。また、ノートなどを活用することで、成長の記録としての活用や評価に生かすなどの工夫をする。